2022 年度　第 3 回土木学会　原子力土木委員会
議事録

1. 日時：2023 年 1 月 27 日（金）13:00-17:30
2. 土木学会会議室及びオンライン 第 1 部：Zoom，第 2 部：Webex
3. 出席者（委員および委員兼幹事）：中村，大鳥，高田，蛯沢，大島，片岡，蒲池，笹田，関本，髙岡，高橋（一），佃，土，平田，藤本，堀江，三島，吉田（進），吉村，米山，渡辺，河井，佐藤，武田，冨尾

出席者（委員会顧問）：石橋，上田，竿本，酒井，西，丸山
出席者（幹事）：岡田，熊崎，吉井，米津
出席者（常時参加者）：木原，澤田，篠田，中田，松村
出席者（オブザーバー）：太田，桑垣
出席者（事務局）：丸畑

配　付　資　料

資料番号	資　　料
資料 22-3-1	2022 年度 第 2 回 原子力土木委員会 議事録
資料 22-3-2	技術文書審議タスク（担当：地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会 ）
資料 22-3-3	技術多様化・普及タスク
資料 22-3-4	原子力土木委員会名簿
資料 22-3-5	技術文書審議タスク関連資料一式
資料 22-3-6	委員会規則の一部改正の提案
資料 22-3-7	委員会内規の一部改正の提案
資料 22-3-8	リスクコミュニケーション小委員会 活動報告，活動報告例，第 2 期提案書
資料 22-3-9	規格情報小委員会 活動報告，期間延長提案書
資料 22-3-10	断層活動性評価の高度化小委員会 実施報告
資料 22-3-11	基礎地盤の変形評価に関する研究小委員会
資料 22-3-12	地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会 活動報告
資料 22-3-13	津波評価小委員会 活動報告
資料 22-3-14	土木学会全国大会研究討論会の報告
資料 22-3-15	令和 5 年度全国大会研究討論会企画の応募について
資料 22-3-16	令和 5 年度全国大会共通セッションテーマと区分
資料 22-3-17	次期委員長候補選出について
資料 22-3-18	原子力土木委員会年間スケジュール
別添資料	外的事象に関わるリスク評価技術の標準化に関する最近の取り組み

4. 議題

【第 1 部】13:00-14:30 公開講演会
講演者：糸井 達哉 様（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻　准教授）
演 題：「外的事象に関わるリスク評価技術の標準化に関する最近の取り組み」

【第 2 部】14:40-17:30 委員会（主な説明者）

0）開会挨拶（中村）
1）前回議事録の承認（岡田）
2）技術文書審議タスク（担当：地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会 ）の紹介（岡田）
3）技術多様化・普及タスクの紹介（岡田）
4）委員会名簿の確認（岡田）
5）技術文書審議タスクの審議要領の紹介（中村）
6）原子力土木委員会規則の改正案の承認（岡田）
7）原子力土木委員会運営内規の改正案の承認（岡田）
8）リスクコミュニケーション小委員会の活動報告および第2 期小委員会の承認（松村）
9）規格情報小委員会の活動報告および期間延長の承認（篠田）
10）断層活動性評価の高度化小委員会の活動報告（中田）
11）基礎地盤の変形評価に関する研究小委員会の活動報告（澤田）
12）地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会の活動報告（河井）
13）津波評価小委員会の活動報告（木原）
14）2022 年度全国大会研究討論会の報告（佐藤）
15）2023 年度全国大会研究討論会の応募（佐藤）
16）2023 年度全国大会共通セッション（岡田）
17）委員長候補選出について（岡田）
18）今後のスケジュール（吉井）
19）閉会挨拶（高田，大鳥）

5．議事録

1）開会挨拶

中村委員長より，「現在，コロナウィルスが原因で亡くなる高齢者が増えている。国は with コロナを模索しているが，原子力土木委員会では既に with コロナの体制で活動しており，委員会，小委員会の活動もオンラインまたはハイブリッド形式が定着しつつあると考えている。首相による原子力発電所の稼働，再稼働や新型炉についての言及があったが，小さな安心・安全を優先することなく，大きな安全に応えられるような方策の推進が必要と考える。糸井先生の講演にもあったように，課題に向き合い土木工学が果たすべき役割に真摯に取り組むことが重要だと考えている。また，技術文書の区分と審議過程に関わる内規などの策定もでき，その試行にも取り組んでいるところであり，皆様のご協力に感謝する。本日も多くの審

議，報告事項があるため，よろしくお願いしたい。」との開会挨拶があった。また，岡田幹事長より，本日のオブザーバー参加者名を紹介した。

2）前回議事録の承認

また資料 22-3-1 に基づき，前回議事録（2022 年度 第 2 回 原子力土木委員会議事録）を紹介し，内容について承認された。

3）技術文書審議タスク（担当：地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会 ）の紹介

岡田幹事長より，資料 22-3-2 に基づき，地中構造物の耐震性能高度化小委員会技術文書審議タスクのメンバーを紹介し，タスクメンバーより挨拶があった。

4）技術多様化・普及タスクの紹介

岡田幹事長より，資料 22-3-3 に基づき，技術多様化・普及タスクのメンバーを紹介した。

5）委員会名簿の確認

岡田幹事長より，資料 22-3-4 に基づき，2023 年 1 月現在の原子力土木委員会名簿を紹介した。

6）技術文書審議タスクの審議要領の紹介

中村委員長より，資料 22-3-5 に基づき，技術文書審議タスクの審議要領について説明した。また，澤田常時参加者より，2023 年 1 月 25 日に開催された第 1 回技術文書審議タスクの内容について紹介した。タスクメンバーからは時間が少し足りなかったもの内容の濃い議論ができたとの意見があった。また，内容について以下の質疑応答があった。

Q：技術文書審議タスクにおける資料説明と質疑の時間の割合は？

A：審議過程の説明に 30 分，審議内容の説明に 1 時間，質疑が 30 分程度であった。審議過程の説明に予定より時間を要してしまった。短時間の中で良い議論はできたと考えているが，最終的な評価や講評の時間をとることができなかったため，次回は別枠で事前に審議過程の説明時間を設けた方がよいと考えている。

7）原子力土木委員会規則の改正案の承認

岡田幹事長より，資料 22-3-6 に基づき，原子力土木委員会規則の改正案について説明し，承認された。

8）原子力土木委員会運営内規の改正案の承認

岡田幹事長より，資料 22-3-7 に基づき，原子力土木委員会運営内規の改正案について説明し，承認された。

Q：小委員会の幹事長は，委員会には常時参加者として参加しており，資料もそのような記載となっているが，委員会幹事会への参加はどういった位置づけとなるのか？

A：委員会幹事会には，委員長が要請したメンバーが参加することとなっている。

9）リスクコミュニケーション小委員会の活動報告および第 2 期小委員会の承認

松村常時参加者および桑垣オブザーバーより，資料 22-3-8 に基づき，リスクコミュニケーション小委員会の活動報告について説明した。また，松村常時参加者より，第 2 期小委員会の実施について説明し，承認された。

10）規格情報小委員会の活動報告および期間延長の承認

篠田常時参加者より，資料 22-3-9 に基づき，規格情報小委員会の活動報告について説明した。また，原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析 WG の委員の追加および小委員会活動期間の 1 年延長について説明し，承認された。

11）断層活動性評価の高度化小委員会の活動報告

中田常時参加者より，資料 22-3-10 に基づき，断層活動性評価の高度化小委員会の活動報告について説明し，内容について以下の質疑応答があった。

Q：^{10}Be を用いた評価は有効な手法になり得ると考えてよいか？

A：見込みはあると考えているが，そうではないケースもあるので，今後小委員会で議論したいと考えている。

Q：研究の成果については，どのようにとりまとめる予定か？

A：「その他文書」として報告書をとりまとめる予定である。

12）基礎地盤の変形評価に関する研究小委員会の活動報告

澤田常時参加者より，資料 22-3-11 に基づき，基礎地盤の変形評価に関する研究小委員会の活動報告について説明した。

13）地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会の活動報告

河井委員兼幹事より，資料 22-3-12 に基づき，地中構造物の耐震性能照査高度化

小委員会の活動報告について説明し，内容について以下の質疑応答があった。

C：「機器側の照査」という表現では何の照査を行うのかわからないため，「機器側の性能照査」とした方がよいのではないか。
A：修正する。
C：破砕帯に埋設された RC 構造物の耐震性能評価については，応答側と耐力側の検討を行い，必ずしも耐力側が応答側を上回っていない場合も含めて評価を行うという趣旨だと思うが，その場合フローの中の「耐震性能照査」という文言も「耐震性能評価」としておけば評価と照査が両方とも包括されるのでないか。
A：審議タスクにかけた際の指摘も踏まえて，フローについては公表する前に記載を調整したいと思う。

14）津波評価小委員会の活動報告
木原常時参加者より，資料 22-3-13 に基づき，津波評価小委員会の活動報告について説明した。

15）2022 年度全国大会研究討論会の報告
佐藤委員兼幹事より，資料 22-3-14 に基づき，2022 年度全国大会研究討論会の報告について説明した。

16）2023 年度全国大会研究討論会の応募
佐藤委員兼幹事より，資料 22-3-15 に基づき，2023 年度全国大会研究討論会の応募について説明した。

17）2023 年度全国大会共通セッション
岡田幹事長より，資料 22-3-16 に基づき，2023 年度全国大会共通セッションについて説明し，内容について以下の質疑応答があった。

Q：小分類の「数値解析」は少し広すぎるではないか？
A：趣旨としては，間口を広くしておいて，発表に該当する分類がないという事態が起こらないようにしておく必要があると考えている。

Q：中分類の位置づけがわからない。原子力分野だけで集まることなく，一般土木分野と融合することが大切である．例えば一般土木の地中構造物をやっている人と原子力の地中構造物を研究している人が異なるセッションになることはないのか？

A：異なるセッションになることはない。応募の際に抜けなく拾えるようにという意図であり，セッション分けの際には，地震工学委員会と相談をして，類似の内容については同じセッションとなるようにする予定。

18）委員長候補選出について

岡田幹事長より，資料 22-3-17 に基づき，委員長候補選出について説明した。

19）今後のスケジュール

吉井幹事より，資料 22-3-18 に基づき，年間スケジュールについて説明した。

20）閉会挨拶

高田副委員長より，「たくさんの議題があったが，着実に成果がでつつあると感じている。今後ともよろしくお願いしたい」との閉会挨拶があった。

大鳥副委員長より，「糸井先生の講演は，本委員会にとって非常に参考になったと思う。本日の情報を元にして，活動に反映できる点については積極的に取り込んでほしい。第 2 部では，議題が盛りだくさんであったが，技術文書審議タスクについては，委員長をはじめとした多くの方の尽力により運用が始まった段階だと思っている。技術文書の客観性や透明性を確保する上で重要だと思うので，協力して軌道に乗せていただきたいと思う。規則内規の審議については，今後も活動の状況に応じて修正していけばよいと思う。小委員会活動についても活動しやすい環境をつくることが重要なので，適宜修正が必要であれば相談していただければと思う。全国大会については，成果に対して広く意見を聞く絶好の機会だと思うので，協力していい企画を立案できればと思う。」との閉会挨拶があった。

以上